
外 国 語

1 研究テーマの設定

新学習指導要領においては、教育目標や内容が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱に基づき再整理された。したがって、「目標に準拠した評価」の確実な実施に向け、観点別学習状況の評価についても、資質・能力に関わる「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点に整理されることとなった。

このような背景の下、外国語部門では、これら育成すべき資質・能力のうち、学びを人生や社会にいかそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養に向けた指導と学習活動の在り方、加えて、「主体的に学習に取り組む態度」の評価の在り方を考え、実践することで、そのアプローチが言語学習にもたらす効果について分析し考察した。

「ゴールタスクを中心に据えた『主体的・対話的で深い学び』を促進する学習プロセスの工夫」と「自己調整学習を促進するポートフォリオの活用」の二つを研究テーマとして設定した。

2 各テーマの研究内容

(1) ゴールタスクを中心に据えた学習プロセスの工夫

「単元の目標」（「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の観点における単元の評価規準）の達成を見取るためのゴールタスクを単元指導計画の最後に設定し、「主体的・対話的で深い学び」を促す指導の工夫と学習活動を通して、どのように学習者の「自己調整学習」を促し、学習効果を高めることができるかを研究した。

(2) ポートフォリオの活用

言語学習の履歴を記録するポートフォリオがどのように「自己調整学習」を促し、どのように学習効果を高めるかという点を中心に研究した。ワークシートに従って、学習者は、自身の学習目標を設定した上で学習に取り組み、学習の過程を自己の観察に基づきポートフォリオとして記録し、自己評価・振り返りを行った後に新たな目標を設定していくという学習プロセスの構築を図った。

■ゴールタスクを中心に据えた学習プロセスの工夫

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

英語授業における「主体的に学習に取り組む態度」を育成する指導と学習活動

(2) 研究のねらい

「単元の目標」の達成を見取るタスクを単元指導計画の最後に設定し、「主体的・対話的で深い学び」を促す指導と学習活動を通して、どのように「自己調整学習」を促し、学習効果を高めることができるかを中心に考察する。

2 実践事例

(1) 単元指導計画

ア 科目名：英語コミュニケーション I

イ 単元名：Lesson 4 Changing Behavior in Unique Ways

(BLUE MARBLE English Communication I 数研出版)

ウ 単元の目標：

人々の行動を変える「仕掛け」やソーシャルデザインについて、聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話したり書いたりして伝え合うことができる。

エ 単元の評価規準 a：知識・技能 b：思考・判断・表現 c：主体的に学習に取り組む態度

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><知識></p> <p>・情報や考え、気持ちなどを理由とともに話して伝えるために必要となる語句や文を理解している。</p> <p><技能></p> <p>・身の回りや社会全体で起こる問題を解決する「仕掛け」やアイデアについて、情報や考え、気持ちなどを理由とともに話して伝える技能を身に付けている。</p>	<p>高校生が考える「仕掛け」アイデアコンテストで発表するために、「身の回りや社会全体で起こる問題を解決する『仕掛け』についての自分のアイデア」について、聞いたり読んだりしたことを基に話して伝えている。</p>	<p>高校生が考える「仕掛け」アイデアコンテストで発表するために、「身の回りや社会全体で起こる問題を解決する『仕掛け』についての自分のアイデア」について、聞いたり読んだりしたことを基に話して伝えようとしている。</p>

オ 単元の指導と評価の計画 ●指導に生かす評価 ○記録に残す評価

次	時	学習内容及び学習活動	評価の観点			評価のポイント 指導上のポイント
			a	b	c	
1	1	<p>単元を通じた学習内容を把握する。</p> <p>単元の目標と学習計画をリフレクションシートに記入する。</p> <p>本文のテーマ(身の回りや社会全体において、人々の意識や行動が原因で起こっている問題とその解決策)について理解する。</p>				生徒が単元の目標を理解し、自らの学習過程を自覚的に捉えられるよう指導する。

2	2	Part 1のINPUT (本文の概要や要点の把握) ① Task 1…Q&Aにより本文概要を理解する。 (Listening→Reading) ② Words & Expressions Quiz…新出語の定義 (英文)を用いたクイズを行う。 ③ LOGIC FLOW…キーワードの穴埋めにより本 文の概要や論理の流れを把握する。 ④ 本文の音読練習を行う。	●		複数の学習活動を通して、本文の内 容について概要の把握から要点の 把握へと段階的に行うことで、本文 の理解を深めさせる指導を行うと ともに、その取組状況を観察する。
3	3	Part 1のOUTPUT (本文のリテリング活動) ⑤ リテリング準備メモの作成…要点やリテリ ングに必要なキーワードのメモを作成す る。 ⑥ Task 2…絵とキーワードを手掛かりに1文 リテリング活動を行う。 ⑦ ペアでのリテリングと相互評価を行う。 ⑧ リテリング録画映像の自己評価を行う。	●		Task 2では、文の暗唱とならないよ う指導するとともに、活動シートに 目標段階を示し、目標を持って取り 組ませる。 活動の様子の観察や、ワークシート の記述から取組状況を見取る。
4	4 5 9	第4、5時、第6、7時、第8、9時は、それぞれ本文のPart 2、3、4を第2、3時と同じ流れで行う。			
5	10	単元のゴールタスクの発表準備 【ゴールタスク】 「高校生が考える『仕掛け』アイデアコンテ スト」で発表するために、身の回りや社会全体で起 こる問題を解決する「仕掛け」についての自分の アイディアについて、聞いたり読んだりしたこと を基に話して伝える。 第3時(第5時、第7時)と同様の流れで、活動シ ートを用いて発表の準備メモを作成する。 録画に使用するパワーポイントに発表に必要な キーワードを記入する。			各 Part のリテリング活動と同じ流 れで行うことで、リテリング活動で 身に付けた知識や技能をゴールタ スクにおいて効果的に活用するこ とを意識させる。
6	11 本時	単元のゴールタスクの発表リハーサル 第3時(第5時、第7時)と同様の流れで行う。 ゴールタスク活動シートを用い、ペアによる相互 評価を行った後に、録画映像を用いた自己評価を 行う。	●	●	相互評価や自己評価を通して、改善 点等を分析させ、よりよい発表が行 えるよう指導する。 更に練習を積み重ねることを促す ため、自身の発表をパワーポイント で録画したものを後日提出させ評 価を行う。 授業内で録画したものは周囲の音 を拾ってしまうため、できるだけ静 かな環境で録画したものを提出す るよう指示する。
7	12	単元のまとめと振り返り リフレクションシートに記入する。			リフレクションシートの記述から、 単元全体の取組状況を見取る。 ポートフォリオの記述から、学習に 粘り強く取り組もうとする中で、自 らの学習を調整しようとする側面 を評価する。

カ 授業実践例 (11 時間目/12 時間)

学習活動 (指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
1. ゴールタスクの確認と本時の目標設定 (5分) 2. ゴールタスクの発表リハーサル (15分) 前時で作成した発表準備メモ(本文の概要や要点と本文のテーマに即した自分のアイデアの発表)を見ながら発表の練習をする。 3. ペアでの発表と相互評価 (10分) ペアでお互いに発表し、評価シートを用いて相互評価する。 4. 相互評価やコメントを参考に修正や発表の練習を行う。(5分) 5. 映像録画による自己評価 (10分) 自身の発表をパワーポイントで録画し、録画した映像を用いて自己評価を行う。 6. パワーポイント録画の提出方法を確認し、本時の振り返りを行う。(5分)	記録に残す評価は行わない。 b 高校生が考える「仕掛け」アイデアコンテストで発表するために、「身の回りや社会全体で起こる問題を解決する『仕掛け』についての自分のアイデア」について、聞いたり読んだりしたことを基に話して伝えている。(発表内容) c 高校生が考える「仕掛け」アイデアコンテストで発表するために、「身の回りや社会全体で起こる問題を解決する『仕掛け』についての自分のアイデア」について、聞いたり読んだりしたことを基に話して伝えてようとしていく。(発表内容)

研究実施校：横須賀市立横須賀総合高等学校 (全日制)

実施日：令和4年10月12日(水)

授業担当者：小坂 はつ実 教諭

(2) 11 時間目の授業にて使用したワークシート

ア ゴールタスクの実施要項

より具体的にコミュニケーションの場面を設定することで、生徒が自身のことと結びつけて考えやすく、主体的にアイデアを考えることが期待できる。

Lesson 4 Changing Behavior in Unique Ways

After Reading

1 年次生が「世の中をより良くするための仕掛けづくり」について学習したことを聞いた FLT の ■■■ 先生の声掛けて、来年アメリカで行われる「高校生が考える“仕掛け”アイデアコンテスト」に横須賀総合高校が出場することになりました。あなたは、その校内選考に参加します。審査員は FLT の ■■■ 先生です。

以下の実施要項をよく読み、あなたのアイデアを発表しましょう。

「高校生が考える“仕掛け”アイデアコンテスト」校内選考 実施要項

～ 身の回りや社会全体で起こる問題を解決する“仕掛け”について、あなたのアイデアを発表しましょう! ～

1. 発表内容

Lesson 4 の内容を簡潔に説明したあと、自分のアイデアを紹介する。以下の Step ①～④に従う。

※自分のアイデアに説得力を持たせるため、本文を読んでいない ■■■ 先生にも“仕掛け”の効果が分かりやすく伝わるように、各 Part で行ってきたリテリング活動を十分生かしましょう!

イ 本時の目標設定

目標達成リストを見ながら、リテリング、自分の意見、アイデアの各項目について A、B どちらの段階を目指すか目標設定をさせた。A 段階の表記にあるように、自分の言葉でまとめてリテリングしたり、自分の意見とその理由を具体的に表現したりできるように、各 Part のリテリングでも、同様の段階リストを示し、毎時間目標を設定させた。

★★★ Lesson 4 ゴールタスク活動シート ★★★

Goal: キーワードや絵・写真などの手がかりを元に、Lesson 4 の要点を第3者にも分かるように簡潔に話して伝えることができる。身の回りや社会全体で起こる問題を解決する“仕掛け”について自分のアイデアを話して伝えることができる。

【目標達成リスト】 練習を重ねて、A 段階を目指しましょう!!

項目 \ 評価	A	B
リテリング	自分のアイデアを説明するために適切な具体例を挙げ、要点を過不足なく自分の言葉でまとめて伝えている。	自分のアイデアを説明するために具体例を挙げ、要点を過不足なくまとめて伝えている。
自分の意見	「仕掛け」に対する意見や考えとその理由を具体的に表現している。	「仕掛け」に対する意見や考えを具体的に表現している。
アイデア	アイデアが本文の内容を十分理解したものになっており、アイデアの中身や効果を具体的に表現している。	アイデアが本文の内容を概ね理解したものになっており、アイデアの中身や効果を表現している。

ウ ゴールタスクの相互評価・自己評価記入

ペアでの相互評価の際は、目標設定リストを参照しながら相手の発表を聞き、各項目でどの段階を達成できたか、相互に評価をする。何がよかった、もっとこうするとよいなど、具体的なコメントやアドバイスも書かせた。録画映像の自己評価の際は、相互評価での評価やコメントを参考に、よりよい発表ができるよう準備してから、パワーポイントで録画をさせた。その後、録画した映像を見て、ペアでの発表からの自身の変化を分析し振り返りを記述させた。

【Speaking Task 1】				
項目ごとどの評価を目指すか目標を立てた後、ペアで発表してみましょう！（1分半程度）				
Evaluation by your partner			Partner's name	Partner's comment
①リテリング（本文にある「仕掛け」の内容）	②自分の意見	③アイデア（自分の「仕掛け」のアイデア）		
1				
2				
3				

【Speaking Task 2】				
Speaking Task 1での Evaluation や comment を参考に、発表を録画して、録画したものを自己分析してみましょう！				
Evaluation by your partner			Partner's name	Partner's comment（何ができていた、できていなかった、次回の目標等を具体的に）
①リテリング（本文にある「仕掛け」の内容）	②自分の意見	③アイデア（自分の「仕掛け」のアイデア）		
1				
2				
3				

ペアでの相互評価、録画映像の自己評価は各 Part でも行ったので、生徒は計4回同様の活動をしてから、ゴールタスクに臨んだ。回数を重ね、活動の流れに慣れることで、より取り組みやすくなり、目標を達成することに集中できると考える。また、目標設定リストを用いて自己の目標を設定してからリテリング活動を行い、それが達成できたかについて相互評価と自己評価を繰り返す中で、自身の弱点を発見し克服しようという「自己調整する力」を養うことが期待でき、これらのことが、学習効果を高めることに繋がると考える。

エ ゴールタスクで提出するパワーポイント録画のスライド

授業中や自宅で発表練習を繰り返した後、パワーポイントの記録機能を使って自分の発表を録画し提出させた。スライド枠を与え、「I learned about *shikake* ...」の下の欄と「My idea of *shikake* ...」の下の欄に、各自必要なキーワードを記入し使用させた。生徒は、マイクとビデオを ON の状態で録画することで、自分の発話を聞き、発表しているときの表情や視線を見て、自身の達成度や弱点を客観的に知ることができる。

②

I learned about *shikake* ...

shikake = flexible approach
→change people's behavior
solve social problems
example: toy box with a basket ball hoop

リテリングの内容を表すイラスト

My idea of *shikake* ...

stars on the ceiling
→children go to bed early
= fun and enjoyable *shikake*

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と学習活動のポイント

この単元は、人々の行動を変える「仕掛け」やソーシャルデザインといった生徒にとっても身近な内容を扱っている。各 Part の導入時には、具体例を示して、何のために作られた「仕掛け」なのか予想させることで、テーマに対する興味を引き出す工夫をした。また、単元のゴールタスクとしてリテリングだけでなく、生徒自身に「仕掛け」のアイデアを考えさせることで、学びを深める工夫をした。主体的な学び、対話的な学び、深い学びを実現させるための具体的な場面や活動をア～ウのように設定した。

ア 主体的な学び

リフレクション

単元の最初に、前単元の振り返りをもとに今回の単元の目標とそれを達成するための学習計画を立てさせた。単元の終わりに、目標と計画の達成度を自己評価し、自己の学習を振り返って課題だと思ったことや、それを解決するために具体的に取り組むことを考えさせた。また、この振り返りを次の単元の目標設定に活用するよう指導した。

自己評価

各Partのリテリングで、目標設定リストを用いて設定した自身の目標に到達できたかを自己評価させ、単元の指導計画の最後に設定したゴールタスクのリテリングにおいて、単元の目標の達成に向け自身の課題を確認させた。Partごとに、リテリングの目標を立てさせ、自身のリテリングを録画し、自己評価を行う活動を行った。この録画による自己評価は、各Partのリテリングとゴールタスクで計5回行った。

イ 対話的な学び

相互評価

各Partのリテリングでペアで相互評価させた。お互いの発表から新たな表現を学び、表現の幅を広げるよう促した。また、自分とは異なる考えに触れることで、自身の考えをより深められるよう促した。

ウ 深い学び

自分の意見を伝える活動

身近な問題を解決する「仕掛け」について、自分のアイデアを話して伝える活動に取り組みせ、聞いたり読んだりした内容について、自身のことと結び付けて考えるよう促した。

(3) 結果の検証

ア 生徒の反応

① 実施方法：アンケート（4件法及び自由記述式）

「主体的・対話的で深い学び」を通して育成された力を、ゴールタスクで効果的に発揮することができたと生徒が実感しているかどうかを検証するため、10個の質問項目に答えてもらった。

② 調査人数：27名（英語コミュニケーションⅠ）

③ 調査時期：10月（本単元第12時）

④ 質問内容：質問項目1～8

「次の①～⑧の各活動は、今回のゴールタスクにどの程度役に立ったと感じましたか。」

①Task 1…Q and Aによる本文概要理解（Listening→Reading）

②Words & Expressions Quiz…新出語の英語で書かれた定義を用いたクイズ

③LOGIC FLOW…本文の概要や論理の流れを把握する穴埋め

④本文の音読練習…Repeating/Over Rapping/Shadowingなど様々な音読方法で練習

⑤リテリング準備メモの作成…Partごとの要点やリテリングに必要なキーワードのメモ作成

⑥Task 2…絵とキーワードを手掛かりに1文リテリング

⑦ペアでのリテリングと相互評価

⑧リテリング録画の自己評価

質問項目9 「今までの単元のリテリング(※)と比べて、より主体的に取り組めたと思う。」

質問項目10 「今までの単元のリテリングと比べて、リテリング力が伸びたと感じる。」

※今までの単元(Lesson 1～3)のリテリングでは、Partごとのリテリングを原稿にまとめ、ペアでお互いにそれらを読み合っていた。今回の単元のように、Partごとの活動の段階から目標設定リストを用いて目標を設定したり、リテリング準備メモを作成したり、相互評価や自己評価のような活動は行わなかった。

⑤ 結果

項目	質問 次の①～⑧の各活動は、今回のゴールタスクにどの程度役に立ったと感じましたか。	とても役に立った	役に立った	あまり役に立たなかった	役に立たなかった
1	①Task 1	7名(25.9%)	19名(70.4%)	1名(3.7%)	0名(0.0%)
2	②Words & Expressions Quiz	11名(40.7%)	13名(48.1%)	3名(11.1%)	0名(0.0%)
3	③LOGIC FLOW	10名(37.0%)	17名(63.0%)	0名(0.0%)	0名(0.0%)
4	④本文の音読練習	8名(29.6%)	16名(59.3%)	2名(7.4%)	1名(3.7%)
5	⑤リテリング準備メモの作成	7名(25.9%)	15名(55.6%)	4名(14.8%)	1名(3.7%)

6	⑥Task 2	9名(33.3%)	13名(48.1%)	5名(18.5%)	0名(0.0%)
7	⑦ペアでのリテリングと相互評価	11名(40.7%)	9名(33.3%)	5名(18.5%)	2名(7.4%)
8	⑧リテリング録画の自己評価	6名(22.2%)	16名(59.3%)	4名(14.8%)	1名(3.7%)

項目	質問	とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
9	今までの単元のリテリングと比べて、より主体的に取り組めたと思う。	10名(37.0%)	12名(44.4%)	4名(14.8%)	1名(3.7%)
10	今までの単元のリテリングと比べて、リテリング力が伸びたと感じる。	8名(29.6%)	15名(55.6%)	3名(11.1%)	1名(3.7%)

(N=27 小数第2位を四捨五入)

○自由記述式回答（生徒の回答をそのまま記述）

質問項目7(⑦Speaking Task 1: ペアでのリテリングと相互評価)の回答の理由

「とても役に立った」「役に立った」の理由

- ・自分が思いつかなかった表現を知ることができた。
- ・ペアの助言や褒めが、自信につながったから。
- ・自分の言葉で情報を発信していく力がついたと思うから。
- ・人に評価してもらうことで自分では気づかなかったことに気づくことができたから。
- ・言い換え表現などをペアの人と確認して用いたりすることが出来たから。

「あまり役に立たなかった」「役に立たなかった」の理由

- ▲英語が苦手だからキーワードや絵だけじゃ英語が出てこなくて何を言ったらいいかわからず難しかった。
- ▲相手の人に任せてしまうことが多かったから。
- ▲難しくあまりできなかった。

質問項目8(⑧Speaking Task 2: リテリング録画の自己評価)の回答の理由

「とても役に立った」「役に立った」の理由

- ・自分の英語が他人から見たらどう見えるかがわかる。
- ・ゴールタスクと直結してくる内容で毎回話す練習にもなりとても効果があったから。
- ・活動の内容については良いと思ったけど授業内でのみの使用だったので自己学習でも用いたほうがより成長できるなど感じた。
- ・自己分析や振り返りを行うことで、次回への具体的な目標が立てられるし、自分のできない部分が分かると思った。
- ・録画を見てみると発音や目線といった課題を発見でき、何度も見直すことが出来るので過去の自分との比較が可能だから。

「あまり役に立たなかった」「役に立たなかった」の理由

- ▲最後のほうの声小さくなっていたり、プレッシャーに押し負けていたりしていた。
- ▲教室ではどうしても声が出しづらく、本来の力が発揮できないと考えた。
- ▲キーワードからの文章の構成がスムーズにいかず準備できる時間が少なかったように感じたから。

質問項目9の回答の理由

「とてもそう思う」「そう思う」の理由

- ・リテリングの準備が十分にできていたから。
- ・ペアと相談したり、話したりすることが多かったから。
- ・しっかりと文章を組み立てていくことが以前よりまともにできていると思ったから。
- ・どんなことを意識して授業に取り組むか決めてから授業を受けたことで、より意識して取り組むことが出来た。

- ・さまざまな活動を通してゴールタスクに生かして行けたから。
- ・より本文の内容について詳しく取り組めたと思うから。

「あまりそう思わない」「そう思わない」の理由

- ▲急に難しくなりすぎて何も言えないことなどがあったから。
- ▲しっかりと理解しないと活動できなかったから。
- ▲今までの単元の活動と比べて難しいことが多く、あまり集中できなかったから。

質問項目 10 の回答の理由

「とてもそう思う」「そう思う」の理由

- ・研究授業の時に来て下さった先生が私の発表に感動してくれた。
- ・以前より本文の理解力と表現力が上がった気がした。
- ・回数重ねるごとに前よりも伝わりやすくしていくことができたから。
- ・いろいろなところで要約してきたから、以前より力がついたと思う。
- ・自分の言葉で話す活動が多くあり、活用できたから。
- ・教科書に書いてあることをそのまま読むのではなく、しっかり自分の言葉で言おうとする意識を強く持てたから。
- ・ペアワークを通し、よりすらすらと伝えられるようになったから。
- ・自己分析する機会や練習することが今までよりも多かったのでさらに力が伸びたなと感じたと思ったから。

「あまりそう思わない」「そう思わない」の理由

- ▲まだ自分の言葉で表現するのが難しいと感じている。
- ▲Lesson 3 の時のように本文を見ながら自分で必要なところをまとめるほうが理解して取り組めた。
- ▲難しく力が伸びたようには思えなかったから。

イ 生徒の反応についての考察

アンケート調査の結果から、質問項目 7 では、74.0%の生徒がペアでのリテリングと相互評価の活動がゴールタスクに「とても役に立った」、「役に立った」と感じており、ペアでのリテリングでは自分が思いつかなかった表現を知ることができたり、相互評価での相手からの良い評価が自信に繋がったりと、自身の学びにプラスになったと感じている生徒が多かった。また、質問項目 8 では、81.5%の生徒がリテリング録画と自己評価の活動がゴールタスクに「とても役に立った」、「役に立った」と感じており、自分を客観視できることで自身の課題を発見でき、それにより次回への目標設定が明確になるなど、自ら学習を調整しようとする姿が見られた。質問項目 9 では、81.5%の生徒が今までより主体的にリテリングに取り組めたと感じており、質問項目 10 では、85.2%の生徒が今までよりリテリング力が伸びたと感じていることから、各 Part で目標設定リストを用いて目標設定を行い、相互評価と自己評価を繰り返し行う活動に主体的に取り組んだことがゴールタスクに効果的に繋がり、リテリング力の伸びを実感できた生徒が多くいたことが分かる。生徒が活動自体に慣れて、何に意識を向けて取り組めばよいかをより明確に自覚しゴールタスクで力を発揮することができたと考える。しかし一方で、リテリングの活動自体が難しく感じてしまった生徒にとっては、主体的に取り組むことができなかつたり、自身の伸びを実感できるような活動にならなかつたりしたことは残念である。生徒自身が目的意識を持って、一つ一つの言語活動に取り組めるように、事前の説明や取り組みせ方に、より工夫が必要だと感じた。また、「目標を達成できた」と生徒が実感するために必要な支援の量やタイミングについて、生徒の状況をよく見取って判断しなければいけないと感じた。

ウ ゴールタスクの発表における生徒の姿とその考察

提出された生徒のパワーポイント録画から、本文のリテリングの部分はスムーズにできている生徒が多いことが分かった。各 Part でのリテリングの積み重ねがいかされたと考えられる。自分のアイデアについては、適切な内容を伝えられていない生徒がいた。本文で述べられていた「仕掛け」の趣旨を完全には理解できていない生徒がおり、本文のテーマに関連して自分のアイデアを生み出すための指導が十分でなかつたと考えられる。パワーポイントで録画したものを後日提出としたが、第 11 時の授業で行った発表リハーサルでの様子と比べると、よりスラスラと自信を持って発表できている生徒が多く見られた。何度でも撮り直しができるので、練習を重ねて発表に臨んだことが推察される。目標を達成しようとする主体的な取組を

促すこともできたと考えられる。

3 まとめ

10月12日(水)に行った公開授業の後に行った研究協議では、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で他の委員や指導主事と意見交換を行った。「主体的な学び」の視点では、目標段階をしっかりと設定した上で行った活動に対する自己評価は学習効果を高めると考えられるが、生徒がその意義を理解するような説明の工夫が必要であると意見があった。具体的には、「評価」ということだけでなく、それを行うことによって生徒自身にどのような力がつくのかといった、生徒がより納得するような説明を更に工夫が必要である。「対話的な学び」の視点では、相互評価の方法に工夫が必要との意見が出た。目標段階の到達度を「評価」という形式的な方法だけではなく、言いたいことがお互いに伝わっていたかどうか、良かった点や改善点などを口頭でやり取りした方が、学びがより深まったかもしれないと感じた。「深い学び」の視点では、生徒が「仕掛け」のアイデアを考える際に、地域や学校など身近な問題に絞って考えさせた方が、自身のことと結びつけて考えやすく、よりアイデアが出やすかったのではないかという意見が出て、生徒がより実感を持って考えられるような設定づくりに工夫が必要だったと感じた。

今後の展望としては、より生徒が主体的に取り組み、効果的な対話を通して、深い学びに繋がっていくような言語活動を行っていききたいと思う。そして、生徒が自身の課題を発見し、自身の学びを調整し、学習効果を高めたいけるような授業デザインを考え、実践していきたい。

■ポートフォリオの活用

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

英語の授業における「主体的に学習に取り組む態度」を育成する指導と学習活動

(2) 研究のねらい

言語学習の履歴を記録するポートフォリオが、どのように「自己調整学習」を促し、学習効果を高めることができるかを中心に考察する。

2 実践事例

(1) 作成したポートフォリオの構成

ア 単元目標の確認と自身の目標設定（単元の始めに）

単元の始めに、教員が単元の目標、教材観、学習の進め方、評価の仕方等について説明する。それらを踏まえ、生徒は本単元を通して、自分が一番伸ばしたい技能（4技能五つの領域）を選び、その技能の評価規準を参考に、身に付けたい力を具体的な目標として記す。また、その目標達成に向けてどのように学びを進めていくべきかについても具体的に記入する。

Part 1 単元目標の確認
単元名: Lesson 5 A Journey to Peace

各技能の、思・判・表の評価規準

① Listening ② Reading	③ Speaking (Interaction)	④ Speaking (Speech)	⑤ Writing
発展途上国と先進国のどちらで留学するほうが良いかについて議論するために、日本とルワンダを行き来したルワンダ人について書かれた説明文を讀んだり聞いたりして、概要や要点を捉えることができる。	相手を説得するために、発展途上国と先進国のどちらで留学するほうが良いかについて、相手の考えに対し、情報や考え、気持ちなどを具体的に伝えながら、効果的に反論することができる。	相手を説得するために、発展途上国と先進国のどちらで留学するほうが良いかについて、メモの助けがあれば、聞き手を混乱させないように、自分の立場からの意見を論理的に話すことができる。	相手を説得するために、発展途上国と先進国のどちらで留学するほうが良いかについて、情報や考え、気持ちなどを理由や例とともに、比較しながら書いて伝えている。

Part 2 My GOAL の設定

目標は、「～できるようにになりたい」という形で、具体的に書くと良いマルよ。目標は高く持とう！ You can do it !!

今回自分が一番伸ばしたい技能は、() です！
今回の Lesson が終わるまでの My Goal は、...

学び方は、どう工夫してみる？(必要があれば学び方について聞いたり調べたりしよう！)

☆友達と共有してみよう！

イ 授業毎の目標設定と振り返り

授業の始めに、教員は、本時の目標、授業の流れ、授業で意識してほしいこと等を説明する。その上で生徒は、①に本時の自分の目標を記入する。そして授業の終わりに、②に目標の達成率、③にその理由、④に次回までの家庭学習計画を書き込む。次の授業では、生徒は、前時に記入した④の家庭学習を実行できたかを振り返り、記入した上で①に授業での目標を書く、という流れを繰り返していく。

Part 3 目標達成へ向かおう！！[主体的な学び・自己調整力]

Day 1 [Date /]

① 今日がんばること		
② 達成率	[] %	
③ なぜそう思う？		
④ 次回までに何にどのように取り組む？		

↓ 前回の④は実施 (できた ・ できなかった)

Day 2 [Date /]

① 今日がんばること		
② 達成率	[] %	
③ なぜそう思う？		
④ 次回までに何にどのように取り組む？		

↓

ウ 他から学んだことの記録

生徒が、授業内外で調べたり、教員やクラスメートから学んだりした「英語表現、勉強の仕方、コミュニケーションの取り方、授業に臨む姿勢等」について、自分のタイミングで書き込んでいく。また、実際に活用した日を記入することで、自身の学びにいかせられるようにする。

Part 4: [対話的な学び] の記録
Part 2 の目標達成に向けて、他の人(友達・家族・先生など)、本、インターネットなどから学んだことや表現を記録しよう！

日にち	誰・何から？	学んだこと・マネしたいこと・使ってみたい表現	活用した日

エ 自己評価と振り返り

生徒が、自身で設定した、本単元を通して一番伸ばしたい技能に関する目標の達成率を記入する。また、粘り強く取り組めたかどうか自己評価するとともに、単元の学習を通しての自身の成長、学習方法についての振り返り、次の単元や今後の英語学習に向けた目標設定を行う。

<p>Part 5: 自己評価と振り返り</p> <p>① Part 2 の My Goal の達成率は [] %</p> <p>② あなたは、Step 2 の目標に向けて、日々粘り強く取り組み続けられましたか？ (とてもできた / まあまあできた / あまりできなかった / できなかった)</p> <p>③ 自分の成長(良い変化)と、学び方についての振り返り、次の単元への決意を英語で書こう！</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>
--

(2) 単元の指導と評価の計画

ア 科目名：英語コミュニケーション I

イ 単元名：Lesson 6 Humans Evolve with Measurements ～BLUE MARBLE English Communication I (数研出版)

ウ 単元の目標：単位が生まれた歴史について、その概要と個々の具体例を正確に読み取ることができる。また、本文で用いられた英語表現、関係詞等を積極的に活用し、「日本の学校における外見に関する校則の是非」に関し、英語で議論することができる。

エ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 情報や考え、気持ちなどを理由や例とともに書いて伝えるために必要となる語句や文を理解している。 関係詞を使って、名詞に情報を加えながら話す技能を身に付けている。 	<p>外見に関する校則など、物事を特定の基準や規格に当てはめることの是非について、必要な情報を調べ、理由や例、比較考察などを示しながら議論している。</p>	<p>外見に関する校則など、物事を特定の基準や規格に当てはめることの是非について、必要な情報を調べ、理由や例、比較考察などを示しながら議論しようとしている。</p>

オ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	1	<p>【ディベート学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前の単元で行った、ディベート活動を振り返り、改善点を話し合う。本単元の最後に行うディベート活動の論題を確認する。 <p>【本単元の自己目標設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ポートフォリオに本単元における自分の目標とそのための学習方法や意識を記述する。 				<ul style="list-style-type: none"> 本単元のディベート活動の論題を発表する。 単元の目標や評価規準、生徒に期待することなどを明確に説明してから、ポートフォリオに生徒の自己目標を書かせる。
2	2	<p>【教科書学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本文を読んだり聞いたりして、概要や要点の理解に係る問題を解く。 本文の内容について、自分の意見や感想を理由や例とともに伝え合う。 	●			<ul style="list-style-type: none"> 授業の始めに、本時の目標と流れを説明してから、ポートフォリオに生徒の自己目標を書かせる。
3	3	<p>【文法学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の回りのことについて、関係詞を用いて表現する。 ディベート立論のモデル原稿を読み、関係詞が用いられている文を正確に理解する。 	●			<ul style="list-style-type: none"> 授業の始めに、本時の目標と流れを説明してから、ポートフォリオに生徒の自己目標を書かせる。

4	4 5 6	<p>【ディベート学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディベート立論のモデル原稿を読み、立論スピーチの作り方を理解する。 ・即興的なディベートを通して、論題について議論する。(2回実施) <p>論題：“High schools in Japan should abolish their school rules regarding students’ appearances.”</p> <p>【本単元の振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオに、単元の自己目標の達成状況と次の単元に向けての決意をまとめる。 	●	○ ※1	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始めに、本時の目標と流れを説明してから、ポートフォリオに生徒の自己目標を書かせる。 ・同じ論題でディベートを2回行うことで、1回目の反省を2回目にかす機会を与える。 <p>※1 単元のゴールタスクにおける取組から、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面を評価する。</p>
5	—	<p>【自己調整学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の学習目標を設定した上で学習に取り組む、学習の過程を自己の観察に基づきポートフォリオとして記録し、自己評価・振り返りを行った後に新たな目標を設定していく。 		○ ※2	<p>※2 ポートフォリオの記述から、学習に粘り強く取り組もうとする中で、自らの学習を調整しようとする側面を評価する。</p>

カ 授業実践例 (6時間目/6時間)

学習活動 (指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
<p>1. 導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ポートフォリオの記入 <ul style="list-style-type: none"> ・本時の自己目標を記入する。 ○活動の準備 <ul style="list-style-type: none"> ・ディベート活動の心構えや注意点を確認し、グループで最終打合せを行う。 <p>2. 展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ディベート活動 <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で分担された役割に応じて「立論」、「反論」、「議論のまとめ」を行う。 ○ディベートの振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・ジャッジ担当の生徒が、勝敗とその理由、各グループのベストスピーカーとその理由、改善すべき点を発表する。 ・グループ内で自由に、良かった点、改善すべき点を話し合う。 <p>3. まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ポートフォリオの記入 <ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオに本時の学習の振り返りと、単元の学習の振り返りを記入する。 	<p>【思考力・判断力・表現力】</p> <p>スピーキングテスト (定期テスト期間)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>ポートフォリオ (単元の終了時に回収)</p>

研究実施校：神奈川県立柏陽高等学校(全日制)

実施日：令和4年10月27日(木)

授業担当者：佐藤 亮介 教諭

3 生徒のポートフォリオ記入例
 (1) 単元目標の確認と自身の目標設定

Part 2 My GOAL の設定

目標は、「～できるようになりたい」という形で、具体的に書く
 と良いマルよ。目標は高く持とう！ You can do it !!



今回自分が一番伸ばしたい技能は、(① Listening (デベート中に相手の意見をきくこと)) です！
 今回の Lesson が終わるまでの My Goal は、..

聞き取るべきところをおさえて、全体の概要をつかめるようにしたい

学び方は、どう工夫してみる？(必要があれば学び方について聞いたり調べたりしよう！)

- ・授業での音声で気になるところがあったら、家がQRコードを読み取って聞く。
- ・デベート中に相手がどこの単語を強めに言っているのか聞き取って仮定したいことを理解する
- ・there are のようにつかえる熟語的のものもしっかりと覚えて分かるようにしていく。

☆友達と共有してみよう！

学び方に関して、しっかりと具体性を持たせて書けている例。

(2) 授業毎の目標設定と振り返り

Day 3 [Date 9/30]

前回の④は実施 (できた ・ できなかった)

① 今日がんばること	相手の意見をききとる。Listening で 大まかに流れをつかむ
② 達成率	[50] %
③ なぜそう思う？	ノートワークは、相手の言葉をしっかり聴いて内容を理解することができたから。Listening では、途中まではほとんど聞き取って、一旦あやふやになったらその後も混乱してしまっ
④ 次回までに何にどのように取り組む？	本文を目で見て、自分が聞き取れなかったところをどういった発音だったか把握する

次回までに取り組む内容が明確で、実際に取り組んだことが確認できる例。

Day 4 [Date 10/3]

前回の④は実施 (できた ・ できなかった)

① 今日がんばること	ボキャブリーのチェックの時に、それぞれの単語の発音をしっかりと(きいて)正しく発音する
② 達成率	[70] %
③ なぜそう思う？	先生の発音を丁寧にきいて、カタカナで表していないのは、独特の発音も真似しようと、ノートにきいた時に、ききとれたものも物々あったから
④ 次回までに何にどのように取り組む？	ボキャブリーの発音と単語の意味をセットで覚える(キコト、今後はリスニングにはやる！)

Day 8 [Date 10/17]

前回の④は実施 (できた ・ できなかった)

① 今日がんばること	意見を翻かききながら、聞き逃したら、切り替えて少しでも全体の内容を理解できるようにする
② 達成率	[55] % = good
③ なぜそう思う？	分からない単語はカタカナでメモだけして置いて、次の言葉にうつるようにはできたから。何となくは全体で仮定したいことが理解できた。
④ 次回までに何にどのように取り組む？	分からなかったところをメモすることが多くなったから、単語力を身に付けていきたい

リスニングにおける、ストラテジーの変化の例 (Day 3の③とDay 8の③を比較すると、Day 8では、聞き取れない部分が出てきたときに、混乱せずに「次の言葉」に集中して聞くようになっている。)

(3) 他から学んだことの記録

Part 4: [対話的な学び] の記録

Step 2 の目標達成に向けて、他の人(友達・家族・先生など)、本、インターネットなどから学んだことや表現を記録しよう!

日にち	誰・何から?	学んだこと・マネしたいこと・使ってみたい表現	活用した日
9/16	先生	具体的、身近なものを例に挙げること ↑ デリートの選考義務化を私たちの身近な 宿題に例入っていたこと。+ 知っている単語を多めにしていた (身近なことで知っている単語でも聴く例として抵抗が少しい...) (内容を耳と入。アまた)	10/13
10/16	ネット <i>good!</i>	リスニングのコツ ① 短文リスニングからする。 → コーパスのチャンク70と"例文くらい長さのもの で英語をさくことに慣れる ② 代表的な単語を消去 知る → 熟語として音声を聴く ③ 音声に合わせて自分で発音してみる → 追いかける & 重ねる。& リピート ④ さきとや70がたにセテンスは読めて。 深いレベルでいい。 ⑤ テキステーション → コーパスの Final じゃ701 stagesの時のように 聞きた取ったものを書く。	今後 活用したい
10/17	デリートの 相手	相手の反応を見て話をすすめていくこと。身近な例。	

デリートのピルゴ さすがに知らなかったらいくつか単語は「~ in Japanese」で補うこと。

様々な場面で、他から学ぼうとする意識の高さがみられる例。

(4) 自己評価と振り返り

Part 5: 自己評価と振り返り

- Step 2 の My Goal の達成率は [50] %
- あなたは、Step 2 の目標に向けて、日々粘り強く取り組み続けられましたか?
(とてもできた / まあまあできた / あまりできなかった / できなかった)
- 自分の成長(良い変化)と、学び方についての振り返り、次の単元への決意を英語で書こう!

I realize that even if I can answer the question on the test, I can't understand some parts. So, I start to check not only if I answer the question correctly, but also didn't I understand anything. Then I reviewed what and why I didn't understand by using the script. Next, I want to be able to understand the pronunciation better by pronouncing it after the sound. I want to do my best with listening to the test of corpus that will be held again.

リスニングの問題に取り組む際の習慣が変化したことが分かる例(問題が解けたかどうかだけではなく、台本を使って何がどう分からなかったのかを復習するようになっていることが伺える。)

* the test of corpus は
単語の小テストのこと

4 結果の検証

(1) 学習を自己調整する力についての自己評価の変化（事前・事後のアンケート調査）

ア 調査対象

研究担当者3名が勤務する上溝南高等学校・柏陽高等学校・大磯高等学校の生徒432名を対象とした（コミュニケーション英語Ⅲ78名・英語コミュニケーションⅠ80名・英語コミュニケーションⅠ274名）。

イ 調査期間

2022年9月から2022年11月

ウ 分析方法

Google フォームを使って、授業中に実施した。質問は全部で37項目で内訳は(A)国際理解に関する4項目、(B)英語学習全般に関する10項目、(C)英語に対しての自信と抵抗感に関する8項目、(D)学習を自己調整する力に関する11項目、(E)対話的な学習に関する4項目である。本調査では、学習を自己調整する力についての自己評価の変化についてみるため、(D)自己調整する力に関する項目のみ、分析対象とする。なお、質問項目は日本人英語学習者を対象としたメタ認知尺度(安田 2016)を参考とした。回答の方法は、6件法(6. とてもよくあてはまる、5. だいたいあてはまる、4. ややあてはまる、3. ややあてはまらない、2. あまりあてはまらない、1. 全くあてはまらない)を採用した。

エ 分析結果

事前・事後(N=287)の自己評価を比較し、Wilcoxonの符号付き順位検定により有意差検定を行った。検定にはBellCurve for Excelを使用した。学習を自己調整する力に関する質問に対する回答(6件法)は、「24. 過去に上手くいったやり方を繰り返し試みている」、「26. 学習を始める前に、目的達成のために何を学ぶ必要があるかを考えている」、「28. 学習を始める前に、具体的な目標を設定している」、「29. 学習をより細かいステップに分けている」、「30. 学習が終わった時点で、自分の立てた目標の達成度を評価している」の項目において有意な差が見られた(表1)。

表1 学習を自己調整する力についての自己評価の変化

No.	質問項目	事前	事後	差
23	学習するとき、何が得意で何が不得意かを分かっている	4.50	4.57	0.07
24	過去に上手くいったやり方を繰り返し試みている	4.21	4.39	0.18 **
25	学ぶとき、自分がどんな方法を使うべきかを意識している	4.16	4.27	0.11
26	学習を始める前に、目的達成のために何を学ぶ必要があるかを考えている	3.76	3.97	0.21 **
27	目標を十分に達成するために、段取りや時間を配分している	3.52	3.66	0.14
28	学習を始める前に、具体的な目標を設定している	3.44	3.76	0.32 **
29	学習をより細かいステップに分けている	3.09	3.35	0.26 **
30	学習が終わった時点で、自分の立てた目標の達成度を評価している	3.04	3.25	0.21 *
31	学習に取り組んでいるときに、目標に向かっていっているかどうか、定期的に自分でチェックしている	3.09	3.24	0.15
32	目的に合わせて様々な学習方法を使っている	3.86	3.99	0.13
33	理解できないときには、やり方を変えてみる	4.23	4.30	0.07

* : $p < 0.05$ ** : $p < 0.01$

オ 考察

本調査で対象生徒について、学習計画を立て、学習の進み具合を確認し、その結果を評価することで、メタ認知能力の向上がみられた。ポートフォリオを活用し、学習を始める前に学習者自身が何を学ぶ必要があるかを考え、目標設定、計画遂行、評価修正のプロセスを繰り返したことが、一つの要因であると考えられる。結果として、学習者に対して学びの責任を持たせることに繋がり、学習を自己調整する力を育成したと考えてよいかもしれない。

(2) ポートフォリオを使用した生徒の反応

ア 調査対象

研究担当者3名が勤務する3校のポートフォリオを使用した生徒16名を対象とした。抽出方法は、有意抽出法を採用した。

イ 調査方法：アンケート（自由記述式）

ウ 調査時期：11月

エ 質問内容

質問1. 「ポートフォリオを使用した感想を教えてください。」

質問2. 「ポートフォリオを活用したことによる変化があれば教えてください。」

オ 結果（16名のうち3名の回答を記載した）

質問項目1	記述式回答（原文のまま）
	<p>・ <u>小さな目標を毎授業で立てることで、授業を取り組んでいて、目標を意識しやすいし、自分で目標を立てるから、達成したいなど、より意欲が出て、以前より英語の授業に自分が真剣に取り組んでいると感じたからです。</u> また、いいと思った表現をメモし忘れて、それを忘れちゃうことが多いし、更にプリントに書くために、周りの表現や単語により注意が向くようにもなりました。また最後に、その単元のまとめを英語で書くので、自分が今までに習った文法や単語を試せるチャンスになっているからです。</p> <p>・ <u>自分に足りない力を確認し、どうすればその力を伸ばすことができるのかを考える機会となったから。</u> また、日々の学習にダラダラと取り組むのではなく、<u>目標を持って取り組む</u>ことができたから。</p> <p>・ <u>次の授業までにやる事を毎日書いたので、自然とコミュニケーション英語がある前の日には何を書いたのか思い出して、できる事はやるようにする習慣がついた。</u> <u>毎回の授業の前に目標を立てて、書いていたので、前よりも授業の受け方が変わった。</u> 前まではなんとなく受けていたけど、授業の最後でどのくらいできたかを確認するので、その時にできたことを増やそうと意識できるようになった。同じ目標を立てても、レッスンやパート、リスニングのワークのページごとに達成度やできた事は違っているということもよくわかった。さらにレッスンの最後にやること（プレゼンテーションなど）がわかっていて、それに向けた授業になっているということがよくわかった。だから、その発表でどこに注意、注目すればいいのかが自然と理解できた。他の人から学んだことも、今までは自分の中だけで終わらせてしまっていたけど、文で書くことで、記憶に残ることでいっつも思い出すことができたので、<u>自分の成長を感じる</u>ことができた。</p>
質問項目2	記述式回答（原文のまま）
	<p>・ <u>大きな目標を立ててそれを達成するために、小さな目標を立てて、それを達成出来たり、出来なかったとしても、振り返って、また次の機会までにやっておくことを決める、という学習の流れを、部活やほかの教科などにも応用するようになりました。</u> 振り返りが大事だなということに気づいて、一日を振り返る時間を作るようになりました。その方が、自分の課題やいい所を、思い出しやすくなったり、成長をより感じられるなと思いました。</p> <p>・ <u>ポートフォリオのステップ4の枠を埋めるのが楽しくて、以前より積極的に新しい単語や表現を見つけられるようになった。</u> また、学んだ単語をどのような場面で使えるのかも考えられるようになった。</p> <p>・ <u>授業の受け方もそうだし、一番変わった(できるようになった)事は、見通しを持って学習をするということ。</u> 今までは、先生に言われていただけで意味がわからなかったのでやろうとしていなかった。でも、その日の目標と単元の最後の目標があるから、そのために今日の授業で気をつけなければいけないことが、最初から見えてきて、できるようになった。あと、自分ができていないところを通して、それがどうしてなのか、どうすればできるようになるのかを考えられるようになった。今までは、<u>自分のできないことに対して、誰もが言えるような大きな解決策しか出せていなかった。</u> でも、「～ができないから・・・しよう」と自分だからわかる原因、<u>解決方法を考えることができるようになった。</u> 他の科目でもこの考え方はすごく役に立った。</p>

*なお、下線部は筆者。

カ 考察

自由記述から、生徒は、努力すれば手が届くような目標を設定し、その達成に向けて粘り強く取り組んでいることが分かった。質問1の自由記述には、「目標を立てる、持つ」という言葉が繰り返し使われていることから、学習者が見通しを持って学習に取り組んだことがうかがえる。自ら授業に対する目標を設定することで、やるべきことが明確となり、自分自身の成長を実感するに至ったのであろう。また、ポートフォリオを活用した英語学習で身に付けた自己調整する力を、他の教科や教科外の取組に適用させようとしていることが分かった。以上のことから、自己調整する力を育成することを目的としたポートフォリオ

の使用を教科学習に限定することなく、他の教育活動においても活用する方策を教員が検討していくべきであると考え。

5 まとめ

「目標を持って取り組もう」「振り返って、復習をしておこう」「粘り強く取り組もう」という声掛けは、すでに学習への動機付けが強く、学習を自己調整できる一部の生徒には有効であるが、多くの学習者にとっては、単元の目標が何であったか思い出せなかったり、振り返りが単なる感想になり次の行動につながらなかったり、具体的な復習の方法が分からなかったり、粘り強くやるべきだと頭では分かっているにもかかわらず具体的な行動につながらなかったりすることが多い。より多くの生徒が、主体的に学習に取り組む態度を身に付けるにはどうしたらよいか。今回の研究では、一つの方法として、ポートフォリオを活用することで学習を自己調整する力を育成できることが示唆された。

ポートフォリオが効果を発揮するポイントの一つは、その設計である。本ポートフォリオでは、単元の目標やストーリーディング活動との関連の中で自らの目標を設定して見通しを持ち（「MY GOALの設定」）、それを達成するための学習方略を考え、毎授業で自らの学習をモニターし、課題を発見して家庭学習でその課題を解決し、さらにその取組を自己省察し、次の行動につなげるというサイクルが回るよう、生徒の記述欄が設けられている。また、「対話的な学びの記録」を行う中で、他者の行動を通じて知識・技能の向上に向けての取組意欲が増し、新たな学習方略への気付きなどが促される。このように設計することでポートフォリオは、自らの学習過程に能動的に関与するという、これまでのポートフォリオを活用していない授業において一部の成功した学習者（生徒）が持っていたメタ認知能力を、より多くの生徒が獲得することを促すツールとして機能しうる。

もう一つのポイントは、生徒が目標や学習過程での気付きを言語化し、具体的な記述に落とし込んでいる点である。言語化し、本ポートフォリオに記述し「見える化」することで、生徒が自分自身の目標を毎回意識しながらモチベーションを高め、振り返りを次の具体的な行動に移し、学習を自己調整することができる。

今後の課題としては、より内発的な動機付けをどう喚起するか（単元の目標と自分自身の目標との関連性を高めるようどう方向付けられるか）、妥当で達成可能な目標の立て方をどう指導するか、多くの学び方や学習方略にどう触れさせるか、根気よく取り組んではいるが効果の上まらない学習を続けている生徒に対して、それぞれに合ったより効果的な学習方法をどう提案するか、提出されたポートフォリオを教員が段階別に評価する際にどのような基準を設定することが記録に残す評価として、そして生徒へのフィードバックとしてふさわしいのか、他のパフォーマンステスト計画や評価・採点、教材研究、他の学校運営業務や生徒の個別対応をしながら、どこまでポートフォリオの評価や生徒へのコメント記入ができるのかといった点が挙げられ、その答えを模索する必要があると思われる。

こうした課題を教員間、学校間で共有し改善しながら、各校がそれぞれの状況に合わせてポートフォリオを活用することで、生徒の学習を調整する力や、主体的に学習に取り組む態度を育成することが期待される。

参考文献

- ・安田利典 2016 「日本人英語学習者を対象としたメタ認知尺度の作成」(『関東甲信越英語教育学会誌』30巻) pp. 57-70
https://www.jstage.jst.go.jp/browse/katejournal/30/0/_contents/-char/en (2023年2月15日 閲覧)

<参考1>ポートフォリオの全体像

表紙

柏陽高等学校 後期中間

英語コミュニケーション I Portfolio

Lesson 5

(評価項目:主体的に学習に取り組む態度)

主体性は大きく

- 他から吸収して自己の学習を調整する力
- 目標に向かって粘り強く取り組む力

の2つに分かれるマルよ!



経済産業省が示した、これからの社会に必要な「社会人基礎力」

その中の1つが、「前に踏み出す力」

「前に踏み出す力」とは

- ・物事に進んで取り組む**主体性**
- ・他人に働きかけ巻き込む**働きかけ力**
- ・目標を設定し、確実に行動する**実行力**

授業に落とし込むと、

- ・授業に**能動的**に取り組み、**挑戦**を恐れず、
- ・クラスメイトと互いに**高め合い**ながら、
- ・毎時間**目的意識**を持ち、**粘り強く達成に向けて行動**していくこと。

Class. 1-() No. () Name: ()

①単元の始めに

Part 1 単元目標の確認
単元名: Lesson 5 A Journey to Peace

各技能の、思・判・表の評価規準

① Listening Reading	③ Speaking (Interaction)	④ Speaking (Speech)	⑤ Writing
発展途上国と先進国のどちらで留学するほうが良いかについて議論するために、日本とルワンダを行き来したルワンダ人について書かれた説明文を読んだり聞いたりして、概要や要点を捉えることができる。	相手を説得するために、発展途上国と先進国のどちらで留学するほうが良いかについて、相手の考えに対し、情報や考え、気持ちなどを具体的に伝えながら、効果的に反論することができる。	相手を説得するために、発展途上国と先進国のどちらで留学するほうが良いかについて、メモの助けがあれば、聞き手を混乱させないように、自分の立場からの意見を論理的に話すことができる。	相手を説得するために、発展途上国と先進国のどちらで留学するほうが良いかについて、情報や考え、気持ちなどを理由や例とともに、比較しながら書いて伝えている。

Part 2 My GOAL の設定

目標は、「～できるようにになりたい」という形で、具体的に書くと良いマルよ。目標は高く持とう! You can do it!!

今回自分が一番伸ばしたい技能は、() ですよ!

今回の Lesson が終わるまでの My Goal は、...

学び方は、どう工夫してみる? (必要があれば学び方について聞いたり調べたりしよう!)

☆友達と共有してみよう!

②授業毎に

Part 3 目標達成へ向かおう!! [主体的な学び・自己調整力]

Day 1 [Date / /]

① 今日がんばること	
② 達成率	[] %
③ なぜそう思う?	
④ 次回までに何にどのように取り組む?	

↓ 前回の④は実施 (できた・できなかった)

Day 2 [Date / /]

① 今日がんばること	
② 達成率	[] %
③ なぜそう思う?	
④ 次回までに何にどのように取り組む?	

↓

Day 3 [Date / /] 前回の④は実施 (できた・できなかった)

① 今日がんばること	
② 達成率	[] %
③ なぜそう思う?	
④ 次回までに何にどのように取り組む?	

↓ 前回の④は実施 (できた・できなかった)

Day 4 [Date / /]

① 今日がんばること	
② 達成率	[] %
③ なぜそう思う?	
④ 次回までに何にどのように取り組む?	

↓ 前回の④は実施 (できた・できなかった)

Day 5 [Date / /]

① 今日がんばること	
② 達成率	[] %
③ なぜそう思う?	
④ 次回までに何にどのように取り組む?	

↓ 前回の④は実施 (できた・できなかった)

Day 6 [Date / /]

① 今日がんばること	
② 達成率	[] %
③ なぜそう思う?	
④ 次回までに何にどのように取り組む?	

↓ 前回の④は実施 (できた・できなかった)

Day 7 [Date / /]

① 今日がんばること	
② 達成率	[] %
③ なぜそう思う?	
④ 次回までに何にどのように取り組む?	

↓ 前回の④は実施 (できた・できなかった)

Day 8 [Date / /]

① 今日がんばること	
② 達成率	[] %
③ なぜそう思う?	
④ 次回までに何にどのように取り組む?	

Part 4: [対話的な学び] の記録

Part 2 の目標達成に向けて、他の人(友達・家族・先生など)、本、インターネットなどから学んだことや表現を記録しよう!

日にち	誰・何から?	学んだこと・マネしたいこと・使ってみた表現	活用した日

③生徒の好きなタイミングで

Part 5: 自己評価と振り返り

① Part 2 の My Goal の達成率は [] %

② あなたは、Step 2 の目標に向けて、日々粘り強く取り組み続けられましたか?
(とてもできた / まあまあできた / あまりできなかった / できなかった)

③ 自分の成長(良い変化)と、学び方についての振り返り、次の単元への決意を英語で書こう!

☆教員使用欄★

	書いていない	→	→	たくさん具体的に書けている	
「主体的」	学習方法の改善	C	B	A	A*
「対話的」	周りに学ぶ姿勢	C	B	A	A*
「深い学び」	自己の変容と前向きさ	C	B	A	A*

コメント

④単元の終わりに